

# いると安心! かかりつけ医

**特集**

知っておきたい

## 「乳がん」のこと

大学病院と密接な関係で  
医療連携を推進する

**かかりつけ医と  
獨協医科大学  
埼玉医療センター  
との連携**

部門紹介

**総合がん診療センター  
のご案内**



第 **5** 号

2022 年 4 月発行

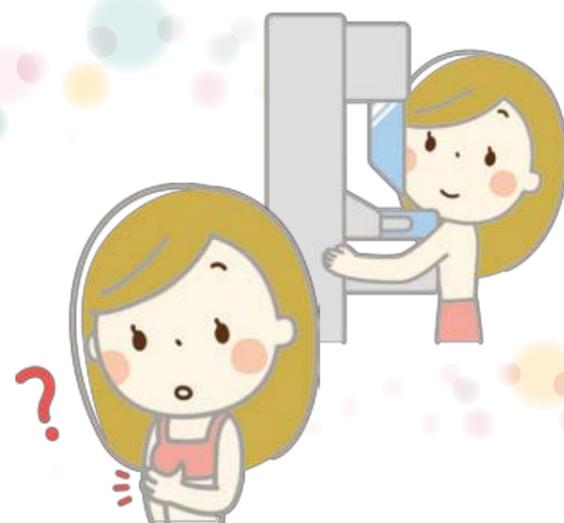
獨協医科大学埼玉医療センター 地域連携広報誌

まもるがかり

まもるがかり

# 知っておきたい 「乳がん」のこと

日本人女性がかかるがんの中で最も多いのが、乳がんです。しかし、乳がんは早期に発見・治療すれば約90%が治るため、セルフチェックや乳がん検診が非常に重要となります。今回は、この乳がんについて乳腺科の小川 利久先生に伺いました。



YouTubeでは今回のインタビュー動画を配信中!



## 乳がんってどんな病気?

乳がんは乳腺の組織にできるがんです。乳腺には母乳を作る「小葉」と、母乳を乳頭まで運ぶ「乳管」があり、乳がんの約90%は乳管の中で発生します。

乳がんの発症率は、35歳を過ぎると急激に増加します。これはエストロゲンという女性ホルモンが深く関与しているため、月経の回数が多いほど乳がんの発症リスクも高まるということです。ほかに初潮が早かった人、出産や授乳の経験がない人、身内に乳がん患者がいる人や乳がんのリスクが高まります。また飲酒や肥満も注意が必要です。しかし、女性であれば誰にでも発症し得るため「閉経したから」「若いから」といって油断はできません。

日本では乳がんになる女性の割合が最も多く、患者数も右肩上がりに増加中です。しかし乳がんは、もともと悪性度の高いものではありません。乳がんによる死亡率は第5位となっており、早期に治療すれば高い確率で治る病気なのです。



乳腺科 特任教授  
小川 利久

昭和59年 鳥取大学医学部 卒業  
同年より 東京大学医学部附属病院分院外科研修  
昭和61年 友愛記念病院外科  
昭和63年 都立駒込病院外科  
平成4年 東京大学第3外科助手  
平成9年 学位取得(医学博士)(東京大学:第13438号)  
平成10~12年 ドイツ・ウルム大学外科(Prof.Hans G.Beger) 研究員  
脾臓、内分泌外科、代謝研究に従事  
東京大学 乳腺内分泌科 講師  
平成14年 同准教授  
平成18年 獨協医科大学越谷病院 乳腺センター教授 センター長  
平成26年4月 獨協医科大学埼玉医療センター 乳腺科 教授  
平成28年4月 現職  
令和4年4月

## 早期発見・治療のためには

乳がんは進行すると、がん細胞が血管やリンパ管に入り込み、全身を巡ってほかの臓器に転移します。転移していなければ5年生存率は90%を超えますが、転移すると50%以下に下がってしまいます。そうした事態を防ぐためにも、少しでも早く乳がんを発見することが大切なのです。

乳がんは自分で発見しやすい病気の1つとされています。特に自覚しやすい症状が、しこりです。月に1回は自分で乳房を触り、しこりがないかどうかチェックしましょう。入浴時に石けんをつけると、手の滑りが良くなりしこりを見つけやすくなります。鏡に上半身を映し、胸にくぼみや左右差がないか確認するのも良い方法です。また、乳頭から血液や分泌液が出ることもあるため、下着にも注意してみてください。そこで少しでも違和感を覚えた場合は、医療機関へのすみやかな受診をおすすめします。

もう1つ重要なのが、定期的に乳がん検診を受けることです。越谷市では2年に1回の視触診、マンモグラフィ検査を推奨しています。しかし、中には「痛いから乳がん検診は受けたくない」という方もいらっしゃると思います。その場合は超音波検査を行っている施設もありますので、定期的にしっかりと検診を受けましょう。

## 当院の乳腺科の特長

当科では、乳がんの診断から手術、薬物療法、放射線療法、緩和ケアに至るまで、乳腺専門医が一貫した診療を行っています。それには化学療法や遺伝子カウンセリングなど、あらゆる分野との連携が不可欠です。どれか1つでも欠けてしまうと、完全な診断や治療ができません。そのため乳腺外科医や放射線治療医、看護師など各領域の専門家が集まり、チーム一丸となって最善の治療法を追求しています。

当科の軸は標準治療で、臨床研究に基づくメリツトのある治療を積極的に取り入れています。年間の手術件数は約250~300件です。腫瘍の場所や大きさなどから適切な手術方法を決定しており、患者さんの病状に応じて乳房温存手術を行うケースも少なくありません。

乳がんは治療が始まると、どうしても通院する回数が増えます。例えば週1回化学療法を行うこともありますし、手術後は傷を見るために毎週のように通院することもあるのです。そこで遠い病院を選んでしまうと、途中で通いきれなくなるおそれがあります。専門医がいる病院であれば治療の内容に大差はありません。乳がん治療は主治医との付き合いも長くなるので、ぜひ通いやすい医療機関を受診していただければと思います。

## 患者さんの安心のために

病棟では、術前から術後、退院までの周産期の患者さんや抗がん剤治療を受ける患者さん、終末期を迎えた患者さんの緩和的な看護を行っています。外来では、診察補助や検査の説明、点滴・注射を行っています。患者さんは痛みや治療、期間、予後について不安を訴える場合が多いです。そうした不安を解消するには、信頼関係が大切。乳がんは他のがんに比べて治療期間が長い為、継続的に介入し、話をよく聞くようにしています。患者さんの何気ない言葉の中に潜在的な問題を抱えていないか、日々気を付けています。



看護師  
西岡 俊子

# かかりつけ医と 獨協医科大学埼玉医療センター との連携

日頃の診療や健康管理をしてくれる  
身近なお医者さん“かかりつけ医”。

体のちょっとした症状が気になるときや、  
健康診断で異常な数値が出たときなどに  
大変頼りになる存在です。

イザというときのかかりつけ医、あなたはいますか？



## 乳腺科のご案内

がんの診断から手術、薬物療法（ホルモン療法、化学療法、分子標的療法）、放射線療法、緩和ケアに至るまで、乳腺専門医が一貫した診療を行っております。一人一人の患者さんの病状に応じて、乳腺外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、専門看護師など各領域の専門家が集まって検討会を行い、最善の治療法を追求していく新しい形のチーム医療を目指します。緩和治療に関しては、近隣連携施設と協力しつつ治療を行います。



### 特色

- 1 乳がんの診療においては、単にがんであることの診断だけにとどまらず、マンモグラフィや超音波検査、MRIなどの画像検査を駆使して病巣の広がりや進行度を精密に診断し、治療方針を決定します。
- 2 がんの根治において安全であれば可能な限り乳房温存手術を行います。
- 3 病巣の進行度によっては、術前に薬物療法を行って乳房温存手術の可能性を高めます。
- 4 術前・術後の薬物療法は、組織検査の結果から最近のエビデンスに基づいて、ホルモン療法、抗がん剤、分子標的療法などを適切に組み合わせた治療法を選択します。
- 5 乳がんの薬物療法に関しては、新薬や新しい治療法の臨床試験に積極的に参加しております。
- 6 乳がんの診断から治療、場合によっては緩和ケアまで各主治医が責任を持ち、さらに近隣の医療機関とも連携をとりながら診療を担当します。
- 7 手術の後遺症や薬物療法の副作用に対しても、可能な限りの治療と生活上のアドバイスをを行います。
- 8 当院形成外科との連携により乳房切除後の乳房再建手術を行うことができます。
- 9 石灰化病変に対しては、適応があればステレオガイド化マンモストーム生検を行っています。
- 10 甲状腺内分泌外科専門医による甲状腺・副甲状腺疾患に対する治療を行っております。

### 診察について

初診診療は水曜日と金曜日と第2・4土曜日となりますが、当日は次回専門医による診療予約のみの場合がございます。

- 乳腺疾患の患者さんは、他医療機関からの紹介状、または検診にて（検診異常）と記載された用紙が必要となりますので、必ずご持参下さい。
- 甲状腺・副甲状腺疾患の患者さんは、他医療機関からの紹介状が必要となりますので必ずご持参下さい。
- 再診の方は基本的に予約が必要となります。

# 地域医療の 3つの安心

かかりつけ医と獨協医科大学埼玉医療センターが連携して、地域医療に貢献します。

## 中核病院

治療が難しい病気でも、高い技術を持った専門医に診てもらえるのが中核病院です。しかし、いきなり中核病院を訪れると、診察まで長時間待ったり、選定療養費がかかったりします。

だから、かかりつけ医の紹介が必要なんだ

いると安心!  
かかりつけ医

知ってて 安心!  
かかりつけ医と  
中核病院の特長

かかって安心!  
かかりつけ医と  
中核病院との連携

## かかりつけ医 (クリニックや医院など)

あなたのことを良く知っていて、いざという時に中核病院の専門医を紹介してくれます。日ごろから気軽に相談できる“かかりつけ医”を持つことが安心につながります。

それぞれの特長 を理解しよう

患者

獨協医科大学埼玉医療センターでの専門的な検査、手術、治療

### 特長

重篤な患者に対して検査、手術を提供してくれる。  
かかりつけ医と連携して、より良い治療方針を提案してくれる。



あなたの街の  
クリニックへ  
受診

日常診療

### 特長

じっくり診察してくれる。  
日常の健康管理についてアドバイスをくれる。  
検査・手術などが必要なとき、適切な病院を紹介してくれる。



分かりました!

大学 病院へ  
ご紹介

Aさんをご  
紹介しますので  
お願いします

紹介元  
の医院へ  
ご報告

Aさんの  
治療は...

なるほど、  
では...



ちょっと  
お腹が痛くて...

## センター紹介



### 薬剤師 (化学療法部門)

患者さんの血液データを見て、薬剤師の目線で抗がん剤の投与量が適切かどうかを確認しています。また、患者さんにどのような副作用が出ているのかを伺うことも大事な役割のひとつです。その副作用に対する薬が処方されているかを確認し、それでも効果がなければ違う療法を主治医に提案することもあります。通院治療の場合、患者さんが副作用の症状に見舞われるのは自宅で療養している時です。ですから患者さんの声に耳を傾け、安心して抗がん剤治療を続けられるように努めています。



相川 晴彦

### 緩和ケア認定看護師 (緩和ケアセンター)

私は緩和ケアチーム専従の看護師として、病棟と外来の患者さんが早く専門的な治療を受けられるよう支援しています。多くのがん患者さんは、さまざまな不安や辛さを抱えているものです。そのため患者さんに接する時は、そうした不安や辛さを少しでも和らげ、その人らしく過ごせるようなサポートをしたいと考えています。実際、患者さんやご家族から「緩和ケアチームが来ると辛さが減る」「人に話せて荷が下りた」と言われることもあり、そうした時には看護師としての喜びを感じます。



池田 幸恵

### 医療ソーシャルワーカー (相談支援部門)

認定がん専門相談員は相談支援部門で、がん治療を受ける上での不安や悩み、療養生活などについての相談を受けています。対面はもちろん、気兼ねなく話せるよう匿名での電話相談も可能です。現在、私たちの部門では治療と仕事の両立支援に力を入れています。自分ががんと知り、ショックで仕事を辞めてしまう方が多いためです。そこで外部の方と連携して、治療しながら仕事を続けるための支援体制を作っています。この輪が広がり、がんになっても安心して働ける社会になっていったら嬉しいです。



### 診療情報管理士 (がん登録部門)

がん登録とは、初めて当院に来られた患者さんのがん情報を登録することです。他の病院でがんと診断されたり、すでに治療が終わっていても、当院に初めてがんで受診された方は全て登録の対象となります。登録した情報は日本におけるがん対策の推進に役立てられるため、正確性を求められる重要な仕事です。また、院内においても研究や分析のためにデータが欲しいと言われる機会が多く、院内外を問わず様々な場面でデータが活用されることに、やりがいを感じています。



島村 由里子

がんに関わることはすべて積極的に取り入れ  
診療科の垣根を越えた総合的な支援を提供

## 総合がん診療センター のご案内



### プロフィール

- 1991年3月 東京医科歯科大学医学部医学科 卒業
- 1999年9月 東京医科歯科大学泌尿器科 助手
- 2003年7月 東京都多摩老人医療センター 泌尿器科医長
- 2005年4月 獨協医科大学越谷病院泌尿器科 講師
- 2007年7月 獨協医科大学越谷病院泌尿器科 准教授
- 2018年8月 獨協医科大学埼玉医療センター 前立腺センター長 教授
- 2019年7月 獨協医科大学埼玉医療センター 総合がん診療センター長 併任



総合がん診療センター長  
泌尿器科 教授 新井 学

## がん治療を幅広く支援 総合がん診療センター

当センターではがん患者さんご家族に対し、外来における化学療法の実施や副作用の対応、緩和ケアの提供など、がんに関するさまざまな支援を行っています。2020年には通院治療センターを改修。治療ベッドを15から60に増床したことで、より多くの患者さんが外来で抗がん剤治療を受けられるようになりました。ベッドにはテレビを設置し、治療中も快適かつ安全に過ごせるよう専属のスタッフがサポートしています。また当院は「がんゲノム医療連携病院」の指定を受けており、がんの遺伝子を調べて患者さんに合う治療を行うことも可能です（条件あり）。

当院は基幹病院であると同時に、高度な医療を次世代に伝える教育病院です。特にがん診療においては、医療水準を引き上げる存在でありたいと考えています。今後も周辺の医療機関と連携を取り、地域医療の向上に努めてまいります。

地域医療機関と情報共有・連携を図り、  
様々なご相談に対応します

総合患者支援センターのご紹介

総合患者支援センターは、医療連携部門、医療福祉相談部門、入退院支援部門、在宅医療部門、クリニカルパス推進部門及びがん相談支援センターから成り、患者さんや地域医療機関の立場に立ってそれぞれの役割を担っております。

現在、当院の入退院患者数は年々増加の一途をたどり、年間約20,000件を超える入退院数となっております。Patient Flow Management (PFM) による入退院支援の強化並びに円滑化を図っておりますが、多くの患者さんの退院後にまつわる継続した医療支援等は当院のみならず、地域医療機関の皆さまのご支援が是非とも必要です。

当院を受診される患者さんにもつわる様々な問題の解決を医療・保険・福祉等の有機的連携によって進め、当院へ患者さんをご紹介いただく地域医療機関との密接な連携、患者さん及びご家族からの相談に応じられる体制の確保、患者サービスの充実と推進に日々努めております。

各部門の業務内容

医療連携部門

近隣の医療機関（かかりつけ医）から

ご紹介いただいた患者さんに対し、診療予約取得のお手伝い、その診療結果を紹介元に報告するといった業務を行っています。

医療福祉相談部門

専門の医療ソーシャルワーカーが心理的・社会的な問題に対する解決・調整援助、社会復帰に対する援助、経済問題に対する解決・調整援助等の相談を受け付けております。

在宅医療部門

入院患者さんや通院患者さんを対象に、自宅で治療が受けられるように、訪問診療や訪問看護においてサポートいたします。

がん相談支援センター

がん患者さんやご家族の相談者に、科学的根拠とがん専門相談員の実践に基づいた信頼できる情報提供を行い、その人らしい生活や治療選択ができるように支援いたします。

入退院支援部門

入院患者さんの情報を入院前に把握し、問題解決や退院後の支援に向けて早期に着手し、退院調整及び居宅療養支援を通しての方らしい療養生活をサポートいたします。

クリニカルパス推進部門

クリニカルパス（病気ごとに治療や検査、看護ケアなどの内容及び診療計画を一覧できる形式にまとめたもの）を



YouTubeでインタビューを  
見てみよう!

今号の特集、『知っておきたい「乳がん」のこと』は小川 利久先生にインタビューしました。YouTube の動画で見ることができますので、ぜひご覧ください。

2P

コンテンツ

知っておきたい  
「乳がん」のこと

- 乳がんってどんな病気?
- 早期発見・治療のためには
- 当院の乳腺科の特長



こちらのQRコードを読み込んでご視聴ください。  
配信は予告なく終了となる場合がございます。

獨協医科大学埼玉医療センター 地域連携広報誌

まもるがかり

発行 獨協医科大学埼玉医療センター  
〒343-8555  
埼玉県越谷市南越谷 2-1-50  
TEL: 048-965-1111 (代)  
048-965-1147 (総合患者支援センター)  
<https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-s/>

制作 株式会社メディア・プラン  
<http://www.media-plan-tokyo.co.jp/>

次号予告

第6号 2023年4月発行予定

手術支援ロボットって?

現在、多くの医療現場で活躍している手術支援ロボット。当院では、「ダヴィンチ」や「hinotori™」を導入し、手術に活用しています。次号では、手術支援ロボットの特徴やメリットについて、低侵襲治療センター長の先生が解説します。

※内容は変更になる場合がございます。

ご案内

総合患者支援センター医療連携部門のご案内

業務時間 (病院休診日を除く)	平日 土曜日 (第3週を除く)	午前9時00分 ～午後5時00分
連絡先	電話	048-965-1147 (直通)

※ご紹介状をお手元にご準備の上、ご連絡をお願いします。

ご紹介状をお持ちの患者さんは、  
初診の予約ができます。

獨協医科大学埼玉医療センターでは、初診時の外来待ち時間を短縮するために、ご紹介状をお持ちの患者さんより、お電話にて予約受付を行っております。



総合患者支援センター長  
(クリニカルパス推進部門長/  
入退院支援部門長: 総合  
診療科) 齋藤 登

用いた診療をお受けになるための、さまざまな運用支援を行い、安全で適切なチーム医療の推進につながるためのサポートを行います。

1. 初めて当センターを受診される際の流れ

地域の医療機関から、診察依頼のFAXを送っていただきます。

地域連携枠で該当診療科の予約を取ります。

受診日に専用窓口で受付をします。

※まず地域の医療機関を受診され、専門的な診療が必要と判断されて、当センターを受診されるのが一般的な流れです。

※いったん地域の医療機関に戻られた後、改めて紹介されて受診される場合にも、同様に地域連携枠での予約を取って頂くことが可能です。地域連携枠の予約がなくても受診可能な診療科はございますが、待ち時間でご負担をかけることがありますので、当センター宛の紹介状をご用意いただき、ご予約をお取りください。

2. 入院前の情報共有

病歴はもちろん、アレルギー情報、日

常生活様式、現在の体力、常用されている薬やサプリメント、食べ物などの嗜好、ご家族やご家庭の環境、かかりつけ医の情報、介護保険の有無など、数多くの情報を診療のためにセンター内で共有させていただきます。

3. 退院、転院に向けての支援

入退院支援部門では、看護師と医療ソーシャルワーカーが中心となり、地域のケアマネージャーや医療機関と連携を取り、退院・転院の調整を行います。

また、訪問診療、訪問看護を行う在宅医療部門とも連携し、退院調整や居宅療養など患者さんにとって必要な支援を行っております。

患者さん・ご家族の窓口として

外来受診や入院に関する不安、医療費や生活費についての相談、セカンドオピニオンに関する相談、介護保険・社会保険・社会保障等各種公的制度についての相談、退院後の療養先・転院・在宅医療についての相談、がんに関する相談、その他院内設備や医師・看護師・技師等当院職員に対するご意見・ご要望など、様々なご相談やご意見をお受けします。患者さん及びご家族のご相談の内容に応じて各関係部署と連携し解決に向け支援いたします。

“笑顔”がつなぐ患者さんとの  
ふれあいの時間を  
大切にしています



## 理念

常に研鑽し患者の信頼にこたえる

## 病院概要

- 開設年月 昭和 59 年 6 月
- 許可病床数 923 床
- 診療科名 糖尿病内分泌・血液内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、小児科、放射線科、総合診療科、外科、乳腺科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、救急医療科、麻酔科、集中治療科、こころの診療科、皮膚科、リハビリテーション科、小児疾患外科治療センター
- 診療受付時間 午前8時30分～11時30分  
(但し、腎臓内科、脳神経内科、小児科、産科婦人科については午前8時30分～10時30分)
- 休 診 日 日曜、祝日、第3土曜日、開学記念日(4月23日)、  
年末年始(12月29日～1月3日)

## アクセス

東武スカイツリーライン 新越谷駅下車徒歩3分  
JR武蔵野線 南越谷駅下車徒歩3分



 獨協医科大学埼玉医療センター

〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50 TEL:048-965-1111(代)

